

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西城陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都府立西城陽高等学校 スポーツ総合専攻コース 1・2・3年生 121名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○ 専攻スポーツ) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	トップアスリートの講演を通じて、オリンピック・パラリンピック・国際大会への関心や競技力の向上を図り、2020年以降のスポーツ文化の広がりに貢献する人材の育成を目指す。
5 取組内容	<p>(1) 選手について</p> <p>① 事前学習 11月15日(金)～11月21日(木)</p> <p>ア 調べ学習 (ア) WBCとは (イ) 岩田稔選手について (ウ) 糖尿病について</p> <div data-bbox="467 1453 778 1874" data-label="Image"> </div> <p>事前学習として、スポーツ総合専攻コース全生徒に、「岩田稔選手」をテーマに調べ学習を行った。</p> <div data-bbox="885 1758 1353 2101" data-label="Image"> </div> <p>現役のプロ野球選手であり、WBCにも出場経験もあるが、岩田選手について知らなかった生徒も多数いた。調べることで関心を持つようになった。</p>

(2) トップ選手による講演会

日 時 令和元年11月22日(金)
13:25～15:15

講 師 岩田 稔 選手
(阪神タイガース 所属)



(C) 阪神タイガース

【講師の主な競技実績】

- ・プロ通算13年(登板192試合/59勝80敗 防御率3.33)
- ・第2回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)日本代表
- ・2014年7月 セ・リーグ月間MVP
(月間4勝 防御率1.25)
- ・若林忠志賞(2013年)

内 容 ①岩田選手講演
②本校教諭 染田賢作(元 横浜ベイスターズ)との対談
③質疑応答

①講演 13:25～14:15


講演形式で行った。高校時代の話、糖尿病になった時の話、WBCでの経験、今後の目標などを高校生に熱く語っていただき、貴重な時間となった。



②本校教諭 染田賢作(元 横浜ベイスターズ)との対談
14:25～15:05

本校教諭 染田もドラフト1位でプロの世界に入った元プロ野球選手。生徒のアンケートをもとに染田が話題を出し、それに対して当時の話やプロでの話を対談形式で行った。生徒にとっては興味深い内容も多く、貴重な経験となった。



	<p>③質疑応答</p>  <p>時間の都合上、多くはできなかったが、一つ一つ丁寧に答えてもらった。</p> <p>(3) 事後学習 感想・考察レポート提出 11月26日(火)</p>
6主な成果	<p>(1) プロスポーツ選手への憧れ</p> <p>硬式野球専攻生徒や阪神タイガースファン以外の生徒にとっては、岩田選手のことについて知らない生徒が大半を占めていた。そのため、岩田選手が来校されることを生徒に伝え、事前学習として調べ学習を行わせた。それにより、生徒達は現役のプロ選手であり、かつ WBC 日本代表選手として金メダルを獲得した岩田選手に対し、とても興味を抱くことができたと考えられる。</p> <p>講演会当日、岩田選手が会場に姿を現すと、生徒たちは初めて生で見る岩田選手の出で立ちとオーラに圧倒された様子であった。しかし、前半の講演を聴いていく中で、岩田選手の人柄や皆に語りかけるような優しい口調に、緊張がほぐれ、話を熱心に聴く姿が見られた。後半は本校教員で岩田選手と同じく自由獲得枠でプロ野球の世界に入った染田先生が生徒のアンケートをもとに岩田選手に話題をふっていく対談形式で行った。染田先生と岩田選手は同じ世代であり、学生時代のリーグも同じ旧知の間柄であったため、プロでの話だけでなく、学生時代の話も含めて話を進めてくれた。岩田選手も講演時とは違い、気さくに話をしてくれたので生徒たちも笑顔で話を聴いている姿が見られた。今後のプロ生活での目標も語られ、生徒たちは岩田選手に対し憧れを持つようになっていった。また、阪神タイガースという人気球団ということもあり、関西のスポーツ新聞記者やカメラマンをはじめ、多数の取材者が来たことに対し、「これがプロ選手なのか」と驚いていた様子であった。今回のオリパラ事業を通して、自分も将来、岩田選手のようになりたいと思い、強い憧れを持つようになったと言える。高校生にとって日々継続してモチベーションを高く保つのは難しいが、今回の出会いによって、自分達が目指すべき選手像や目標を明確にすることができたと考えられる。</p> <p>(2) 生徒の意識の変化</p> <p>岩田選手の話の中に、生徒にとって印象に残る言葉が多くあり、その言葉を聞いて生徒の意識が変化していくのが感じ取れた。特に生徒たちが印象に残った話に共通していたのは、「目標達成のために自分はどうすべきかを考え、目先のことを短期的に考えるのではなく、長期的に考えて行こう。」「何事にもプラスに考え、できると思うこと。」「色んな経験をされている指導者に積極的に指導を仰ぎにい</p>

	<p>かないと損をする。私はあるコーチの一言で変わったから今がある。」「40歳まで現役を続けたい。そのために今何をしなければならないか。」等の言葉であった。特に、「何事に対してでもできると思うこと。」という内容は昨年のパラリンピアンである山本選手、一昨年の陸上・十種競技の右代選手の講演会でも話されていたことであったので、生徒にとって特に印象的であったと考えられる。それに加え「現阪神タイガースの矢野監督はどんなピンチになってもチャンスと叫んで雰囲気をよくしている。プラスの言葉を言うのは非常に良いし、プラス思考で取り組める」と話されていたこともプラスのイメージを持つことに対する重要性の理解につながったと考えられる。</p> <p>生徒は事前学習で岩田選手の事を調べた中で知った糖尿病に対し、勝手なマイナスイメージを持っていたところがあったようであるが、岩田選手が「確かに高校時代は糖尿病が理由で社会人チームの内定が取り消されたこともあり悲観したが、当時の監督が支えてくれたお陰で頑張らねばと思えた。だから今は自分が糖尿病患者への勇気になれるように頑張らないといけないと思っている。」と話され、この言葉を通して、決してそうではないと認識したようであった。岩田選手の自分の意志をもって貫く姿、そしてそれに対してひたむきに取り組む姿に格好いいという感想も多く、プロの世界で長年活躍する選手の競技に対する向き合い方や生き方について感銘を受けたようであった。質問に対しても熱心に答えてくれ、また岩田選手の人柄もあり生徒たちとの距離感が一気に近付いたと感じる。自分たちも岩田選手のようにになりたいという憧れや強い意識をもって頑張らねばならないという考えを再確認させられ、意識が講演前と比べて高まったと考えられる。</p> <p>(3) 東京オリ・パラへの興味と出場への意欲</p> <p>2020年、東京において行われる大イベントであるオリンピック・パラリンピックに向けて、岩田選手の講演会と出会いによって、生徒たちがオリンピックに対して興味を持ち、応援したい選手として身近に感じてくれたことは今回実施した意義や成果はあったと考える。また今年度は全国I.H.で入賞した選手や国体で入賞、その他全国大会で入賞した選手が多く在籍しており、自分たちも一緒にオリンピックに出場したいと思ってくれる選手も少なくなかった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>講師選びと時期選びの工夫</p> <p>本校はスポーツ総合専攻コースがあり、チャンピオンスポーツを目指すべく生徒たちは入学し、日々切磋琢磨している。環境も整えていただき恵まれている。ただ、恵まれた環境が故、ハングリー精神や恵まれた環境のありがたさを感じる気持ちが少し薄らいでいるように感じていた。そのため、人柄も良く、常に向上心を持って練習されている岩田選手に講演を依頼した。また糖尿病を患いながらも前向きに取り組むだけでなく、慈善事業にも参加している点も学ぶべきところである。</p>

8主な課題等	<p>(1) トップアスリートとの調整 どの学校でも共通することではあるが、学校の状況に合わせた講師選びと立案・準備・アスリートとの日程調整が難しい。</p> <p>(2) 学校行事などの活用 本校はスポーツ総合専攻の生徒対象の2時間連続の授業内で実施した。内容は大変有意義なものであるので、一部の生徒対象にせず、全校生徒対象で行えると良いのではないかと考える。ただ、予算の都合上仕方ないことと理解しているが、この事業自体の決定をもう少し早めていただければ、年間行事にも組み込めるのではあるが、決定した時にはなかなか他のコースや学校行事との調整が難しくできない状況となっている。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>学校全体での取り組み 一部の生徒に限らず、全校生徒が東京オリンピック・パラリンピックに目を向けていくための取り組みを行えるように進めていければと考えている。</p>



様々な新聞にこの講演会が掲載された